

ReadyDR

ReadyDR はスナップショットベース、ブロックレベルの災害対策（ディザスタ・リカバリ：DR）ソリューションとなります。

スナップショットは BTRFS ベースとなるため、宛先として USB HDD や eSATA ドライブを指定することはできません。また、スナップショットが無効の場合、データ転送が行われませんので、ご注意ください。

この機能は x86 系の ReadyNAS（RN300 以降）のみ使用可能となり、arm ベース（RN100、200、210、2120）の ReadyNAS ではサポートされていません。

高可用性、またはリアルタイムバックアップソリューションには対応しておりませんので、予めご了承下さい。

種類

- ・ローカル→ローカル（同一 NAS 内でのバックアップ）
- ・リモート→ローカル（同一ネットワーク上の ReadyNAS からのバックアップ）
- ・ローカル→リモート（同一ネットワーク上の ReadyNAS へのバックアップ）
- ・リモート→リモート（同一ネットワーク上の ReadyNAS 同時のバックアップを仲介）

設定

1. ReadyDR の画面に移動します。

その後、ReadyDR のサービスを[ON]に切り替えます。（コピー元、コピー先両方）
管理者ページ>[バックアップ]>[ReadyDR]



2. ReadyDR を ReadyNAS 同士で使用するためには、お互いの公開鍵を追加する必要があります。

【ダウンロード方法】：

[バックアップ] > [ReadyDR] > [アクセスリスト] >

[キーファイルをダウンロード]



【適用（インポート）方法】：

[バックアップ] > [ReadyDR] > [アクセスリスト] > [公開鍵のインポート]
ダウンロードしたキーファイルを選択しアップロード



3. バックアップジョブを作成する。

名前：バックアップの名前を入力します。

ローカル、リモート：ローカル（設定している ReadyNAS）かあるいはリモート（同一ネットワーク上にある ReadyNAS）を選択します。

※リモートの場合、公開鍵が登録されている必要があります。

※ポート番号 5253 は規定となり、変更できません。(2016/9 時点)

ReadyDRジョブの追加

名前:

ローカル リモート

共有: 参照

ホスト: :5253

ReadyDR共有: 参照

次へ キャンセル

コピー先は [ReadyDR 共有の作成] から作成します。
共有名および、共有を作成するボリューム名を選択します。

ReadyDR共有の選択

ReadyDR共有の作成

名前	パス
----	----

ReadyDR共有の作成

名前:

ボリューム: data

作成 キャンセル

選択 キャンセル

次にオプションの設定を行います。

帯域制限 (KB/s) : 規定値 0 は制限なし

圧縮 : 規定値は無効。その他のオプションは、

Better : 高い圧縮率を提供するが、システムへの負荷は高い。物理的な距離が近い場合に有効。

Faster : 転送速度は速いが、低い圧縮率となる。

暗号化された転送 : ローカル同士の場合は無効を推奨。リモート転送を行う場合、有効にすることは可能だが、若干パフォーマンス影響が生じる可能性あり。

※圧縮と暗号化を併用した場合、パフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。

このジョブのシードをエクスポート : USB や eSATA ドライブに対象となる共有のスナップショットのコピーをとり、初期転送にかかる大規模なデータ転送を回避します。USB, eSATA ドライブへ転送する際、LAN 環境に比べ大幅に時間を要する可能性があります。

スケジュール :

定期的 : リモートをコピー元にした場合、こちらのみ指定可能。詳細スケジュールはジョブ作成後に行う。

インスタント : ローカルをコピー元にした場合に選択可能。一度のみのコピーを行う上記を選択後、[終了]をクリックし、ジョブ作成を完了します。

ReadyDRジョブの追加

オプション

帯域制限 (KB/s): 値「0」の場合、制限はありません。

圧縮:

暗号化された転送: OFF

[このジョブのシードをエクスポート]:

スケジュール

スナップショット

ソースリモート共有またはiSCSIはブロックレベルバックアップを行うために、ReadyDRIに設定されたスナップショットが必要です。スナップショットスケジュールのとき、リモート共有またはiSCSIを確認する。

バックアップ

タイプ:

日

スケジュール設定について

ジョブ作成時にはスケジュール設定は定期的と選択はできますが、詳細設定ができません。ジョブ作成後、以下の手順にて実施可能です。

[バックアップ] > [ReadyDR] > 該当ジョブ横のギアマーク > [設定] > [スケジュール]



FAQ

Q: スナップショットが有効ではない場合、ReadyDR ではどのような動きをするのですか？

A: ReadyDR のサービス自体は有効になりますが、何も転送されません。

ReadyDR はスナップショットをコピーする機能となりますので、コピー元でスナップショットを取得し続けることが必要となります。

Q: ReadyDR ではいくつまでジョブを動かすことができるのですか？

A: 理論上制限はありませんが、帯域やシステム自体の負荷によって上限値が変わってきます。

Q: ReadyDR は P2P や leafP2P を使用しているのですか？

A: いいえ、使用していません。

Q: 複数の共有や LUN を 1 つの共有にバックアップすることはできますか？

A: 1 : 1 となるため、できません。

Q: ReadyDR にてコピー先にデータをコピー後、コピー元を削除した場合、コピー先のデータも削除されますか？

A: いいえ、一度コピーされたデータは削除されません。

Q: ReadyNAS replicate のようにインターネット経由でバックアップは行えますか。

A: ReadyDR にはポータルサイトはございませんので、同じセグメントでの使用しかできません。

Q: コピー元ですべてのスナップショットを削除した場合、どのようになりますか？

A: スナップショットがコピー元に存在しない場合、フルバックアップを取得します。

しかし、スマートスナップショットを有効にしている場合、スナップショットは 2 つ残すため、すべては削除されません。